

申請者:熊本 方雄

論文題目 為替相場におけるバブルの理論・実証分析

審査員 釜江廣志
三隅隆司
小西 大

本論文は為替相場における広義のバブル現象を理論・実証分析したものである。まず理論分析においては、広義のバブル現象を投機的バブル、確率的バブル、内在的バブル、定常サンスポット均衡として定式化してそれぞれの発生条件、および期待安定性を分析し、投機的バブル、確率的バブルは期待不安定であり、内在的バブル、定常サンスポットは期待安定であることを示している。また実証分析においては、時系列分析の手法を用いてバブル現象が円/ドル相場において発生しているか、さらにこれらの現象を考慮すると実際の円/ドル相場の動向をどの程度説明し得るかを分析している。その結果、円/ドル相場においては広義のバブルが存在しているが、その大きさは先行研究で検出されたものよりも小さいこと、投機的バブルと定常サンスポットは存在しないこと、内在的バブルを考慮することで円/ドル相場の動向の大部分を説明できること、過度の円高・円安の時期は確率的バブルで説明されることを示している。

本論文の評価できる点として以下の点が挙げられる。第1にバブル現象を理論的に丹念に網羅的に分析している点である。第2に理論分析と実証分析をバランスよく行っている点である。

本論文に残された課題として以下の点が挙げられる。第1に、理論分析において、叙述が形式的になりがちであることである。経済的解釈にさらに工夫が望まれる。第2に実証分析において、円/ドル相場のみ、月次データのみが用いられているが、これらを拡張することが必要であろう。

以上のような問題を残すものの本論文は査読付き雑誌に掲載のものを含んでおり、総合的に学位授与に足りる水準に達していると認められる。よって審査員一同は所定の試験結果を合わせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定に準じた取扱いにより一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。